

最良、最適な治療を、 全ての患者さんに提供する国循のチーム医療

患者さんの負担を最大限に考慮した、低侵襲で安心な質の高い治療を、連携したチームで提供することが国循の使命です。

診療科紹介

■心臓血管内科部門

- 冠疾患科
心筋梗塞や狭心症など、心臓に栄養を送る冠動脈の疾患を専門に治療します。急性期救命率は全国屈指です。
- 血管科
閉塞性動脈硬化症など血管疾患のカテーテル治療を担当します。症例により、血管外科と連携します。

- 不整脈科
バルーンを含む様々な手法でのカテーテル治療が可能です。特にリードレスペースメーカーなどのデバイス植込術の実施件数は日本有数です。左心耳閉鎖デバイスにも取り組んでいます。
- 肺循環科
日本でも数少ない肺高血圧症専門の診療科として、全国から患者さんを受け入れています。バルーンカテーテル治療では世界を牽引する存在です。

■心臓血管外科部門

- 心臓外科
弁膜症や狭心症、心不全などを対象として、生体弁劣化を救うバルブインバルブや経カテーテル的大動脈弁置換術(TAVI)、ロボット手術、オフポンプバイパス術、ホモグラフト手術、VAD、移植などあらゆる外科治療を行います。
- 血管外科
急性大動脈解離など緊急性の高い患者さんに、いつでも対応できる体制を整えており、幅広い症例に対応する低侵襲治療を得意としています。下肢静脈瘤の治療を行う専門外来もあります。



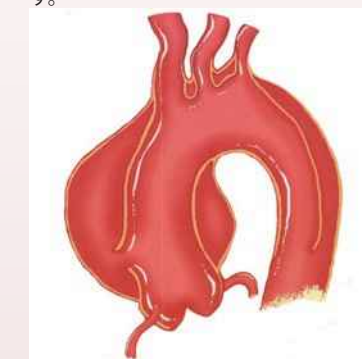
迅速な初療・診察・治療の 着手に、24時間365日体制で 取り組んでいます

新病院となり初療室からカテーテル検査室・CT・MRI画像診断室といった診断・治療部門、治療後の全身管理を行う集中治療室への流れがスムーズになり、最短の時間での適切な診断・治療の提供が可能となりました。
「動く診察室」として高性能のドクターカー使用による患者さんの搬送、および新設されたヘリポートにより遠方からの重症症例の迅速な受入も可能となりました。刷新された新病院でもさらなる救命率の向上と予後の改善を目指しています。また、2020年4月1日より「救急部」が新設されました。



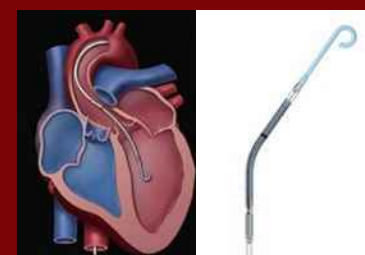
重症な患者さんに対しても、 充実した治療を 行っています

重症な患者さんに対する救急対応も充実しています。心筋梗塞、劇症型心筋炎などで重度の心不全の患者さんに対しては、鎖骨下動脈、大腿動脈から経皮的に心臓内に挿入し、直接左室を補助することができる小型軸流ポンプによる補助人工心臓を導入するなど最新の治療を行っています。
急性大動脈解離の患者さんに対しては従来の緊急手術の対応を行いつつ、ハイブリッド手術室でのステント治療など、幅広い治療を選択することができます。



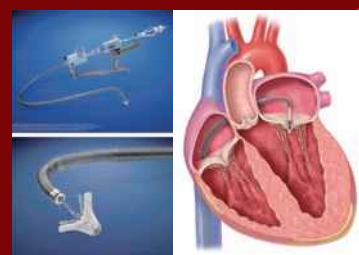
ハートチームで 低侵襲な手術を 提供しています

内科医と外科医がひとつのハートチームとなり、低侵襲な治療であるTAVI、僧帽弁閉鎖不全症に対するカテーテル治療から人工心臓装着術まで、シームレスな治療を行っています。それぞれが協力することにより、患者さんにとってベストな治療を、スムーズかつ的確に選択、実施しています。内科医と外科医が同じハイブリッド手術室で治療するという新しい治療の形態も生まれており、低侵襲な手術を中心にあらゆる治療をこのハートチームで行っています。



心原性ショックに対する 迅速な経皮的カテーテル治療

急性心筋梗塞や重症心不全などによる心原性ショックに対して経皮的カテーテル治療(Impella®、VA-ECMO)を積極的に行っています。迅速な経皮的カテーテル循環補助法を導入することにより救



僧帽弁閉鎖不全症に対する カテーテル治療

僧帽弁逆流の原因となっている部分をクリップで止めるカテーテル治療です。国循で第1例目の治療を行い、この治療の導入に中心的な役割を果たしました。低侵襲でハイリスクの患者さんにも行う



肺動脈バルーンカテーテル 治療(BPA)

慢性血栓塞栓性肺高血圧症に対して、手術が困難な患者さんにカテーテルで肺動脈の狭窄部位を広げる治療が可能になりました。国循でも多くの実績を有しています。



リードレスデバイス

経静脈リードが不要な小型化された様々なデバイスが登場しています。感染症などの合併症の低減、ポケットが不要であるなど、患者さんの身体への負担を減らすことができ、症状に合わせた最適な治療を選択しています。



ロボット外科手術支援システム 「ダ・ヴィンチ」

4本のアームとカメラを装備し、カメラからの情報をもとにアームに接続された鉗子を用いて遠隔操作で手術を行います。僧帽弁形成、三尖弁形成、内胸動脈採取に用います。指導医も2名在籍し、良好な成績をおさめています。



ステントグラフト内挿術

急性大動脈解離や大動脈瘤破裂などの急性大動脈症候群に対して、直達開胸手術だけではなく、血管内に人工血管を留置する低侵襲なステントグラフト治療も行っています。